

## 平成 26 年度 第 1 回文京区協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部 要点記録

日 時：平成 26 年 7 月 28 日（月） 午前 9 時 00 分～12 時 00 分  
場 所：2101・2102 会議室

### <会議次第>

- 1 開会
- 2 プロジェクトの選考方法について
- 3 プレゼンテーション及び質疑について
- 4 プロジェクトの選考について
- 5 その他
- 6 閉会

### <出席者（名簿順）>

八木 茂 本部長（区民部長）、安藤 哲也 本部長、井上 英之 本部長、各務 茂夫 本部長、  
菊地 端夫 本部長、丁 寧 本部長、石嶋 大介 本部長（区民課長）、境野 詩峰 本部長（協  
働推進担当課長）

#### 【関係課】

横山 尚人 経済課産業振興係長、川崎 慎一郎 経済課創業・就労支援担当主査、鈴木 秀洋  
男女協働・子ども家庭支援センター担当課長

【事務局等】 区民課主査（1）、区民課主任主事（1）、パートナー事業者（株式会社エ  
ンパブリック）（2）

### <議 論（要点）>

#### 1 開会

八木区民部長：開会あいさつ

境野協働推進担当課長：出席状況と資料について確認。米国滞在中の井上本部長はスカイ  
プによる参加。

#### 2 プロジェクトの選考方法について

境野協働推進担当課長：資料第1号に基づき、対象団体について説明。支援候補プロジェク  
トのうち、7団体から選考参加の申し込みがあり、そのうち一次選考を通過したのは4団  
体であった。一次選考通過後、1団体が辞退したため、本日は、3団体を対象に二次選考  
を実施する。また、昨年12月から支援を行っている子育てkitchenのハッピーファミリー  
プロジェクトについては、第2クールのプロジェクトの実施結果の報告を行う。審査は、  
1団体当たり、プレゼンテーション10分、質疑応答10分の合わせて20分で進めていく。

#### 3 プレゼンテーション及び質疑について

《新規》

<プレゼンテーション 1 >

プロジェクト名：<sup>エシエル</sup>échelleプロジェクト

団体：<sup>エシエル</sup>échelle

<質疑>

**菊地本部長**：熱意は非常に伝わってきた。このプロジェクトの中で、どのようにお金を稼ぎ、事業性を確保していくのか。また、体験型コンテンツをどのように獲得していくのか。

**プレゼン団体**：3 か月を 1 タームとして、体験プログラム 3 回とワークショップをセットにして、9,000 円で販売したいと考えている。今回、体験型コンテンツの例示をしているが、実際に満足するサービスを立ち上げるためには、まず子育てママのワークライフバランスを伝えるようなセミナーを行い、単発的な収益を上げ、それから実のある体験型コンテンツを作り、9,000 円で販売できるようにしていきたい。

**丁本部長**：事業の主旨は、就業に繋げていくものと理解しているが、プレゼンの中では、自分軸を発見するということが大切で、必ずしも就業に結び付かなくてもよいということであった。どちらに軸を置いていくのか。

**プレゼン団体**：働くことに限定しないスタンスをとっている。就業支援を行うサービスは、他にもたくさんあるため、échelle では、就業に向かう人もいるが、学びに向かう人や地域に戻る人がいてもいいと思っている。

**井上本部長**：事業を開始するにあたって、方針や方向性を具体化することが大切。今の構想の中で、具体的な最初の一步に何をするのか、何が一番効果的だと思っているのか教えてほしい。また、参加した主婦が社会に居場所があると実感するというのは賛成だが、実感するのが「いつか」というゴール設定では、具体的な成長実感を得られる機会がなかなか見えないのではないか。プログラムの最後に、参加者が成長を実感できるということが必要。3 か月参加した後の本人が感じるアウトプットとして何を想定しているのか教えてほしい。

**プレゼン団体**：最初は、東大生体験など「学ぶ」というところからリーチしていきたい。参加者がアウトプットを感じることは大切だと思っているので、体験の前にセミナー、ワークショップを行い、感想文をワードで作成、発表をしてもらおうなど、参加者自身が「私やっている」という感覚を持ってもらえるようなことを行いたいと考えている。

**井上本部長**：プログラムの内容については、本当に大切だと思うので、また聞かせてほしい。固いプログラムだけでなく、本人が尊厳を持つためには、楽しいということが大切なので、簡単なものや面白いものを取り入れていくとより良いものになるのではないか。

**プレゼン団体**：主婦は時間がありそうで、あまりない。一般的に提供されている体験ツアーでも時間の制約で体験できないものが多い。座禅ツアーや裁判所傍聴ツアーなど、普段体験できないものを通じて、何か気づきが得られればと考えている。

**安藤本部長**：体験中の託児もポイントだと思うが、コストについてはどう考えているか。

**プレゼン団体**：発表の中で未就学児という定義を間違えてしまったかもしれないが、幼稚園に預けている時間帯でのサービス提供を考えているため、託児コストは発生しな

い想定である。

<プレゼンテーション2>

**プロジェクト名：**地域コミュニティ情報共有の仕組み創りプロジェクト

**団体：**TEAM 空

<質疑>

**各務本部員：**今回採択された場合に、具体的に何を検証したいのか。検証の方法について教えてほしい。また、サポート企業の感触はどうか。

**プレゼン団体：**新聞広告としてポストインする際に色分けをするなど、どこの地域から来たのか分かるようにしたい。また、利用者からアンケートも取りたいと考えている。サポート企業については、儲けが出るならやるというスタンスがほとんどのため、地域のためにやりましようと言っても上手く説明ができていない状況である。1枚1円で行っているため、大きな金額ではないからやってあげるよ、と言うのが現状である。

**各務本部員：**資金計画書に団体負担金20万円という記載があるが、これはどういったものか。

**プレゼン団体：**費用対効果を調べるために使う費用で、支援金として申請したいと考えている。

**各務本部員：**サポート企業数は、何社を見込んでいるのか。また、2年後の組織として、何人で運営しているイメージか。

**プレゼン団体：**第1クールでは、マーケティングを行うだけなので、2~4社でいいと思っている。組織としては、常勤ではない人10人で運営していく想定である。

**菊地本部員：**紙媒体での情報提供にこだわるポイントは何か。

**プレゼン団体：**理由は2つあるが、1つは、webでやっているところが既にあったので、まずは紙で始めてみようということ。2つ目は、ポストインでちらしを撒くというプッシュ型のやり方がよいのではないかとということである。近くにあるのに気が付かないという潜在的なものを顕在化するには、webではなく、プッシュ型である紙媒体の方がよいのではないかと判断した。

**井上本部員：**商店街、地域に元気になってもらうというのは大賛成だが、紙媒体の広告モデルが上手くいくのかということが肝である。東日本大震災の後に、東北の仮設住宅で情報誌を配布するなど、紙を媒体に地域を活性化しようという事例は全国でも様々なものがあるが、上手くいっているものと上手くいかなかったものがある。それぞれのノウハウを知っておくとよいのではないか。紙媒体を定期的に行うことで情報が流れてしまうということもあるし、実際の購買活動に繋がっていかないなど、壁はいくつもある。プッシュ型の情報は世の中に溢れており、お年寄りも含め情報を受け取る側も信じなくなってきた。どうすれば、信じられる情報を伝えられるのかというのが大切。紙媒体でプッシュするのではなく、何か別の方法を行うことで、人と人との間で会話が生まれ、情報共有が図られていくのではないか。顔を知っている人

から直接聞いたこと、いわゆる口コミは信じられるのではないかと。現在の広告モデルだけでなく、例えば、対話の場など、何か違ったものと組み合わせて行っていくのがいいと思う。

**安藤本部長**：本職はお持ちですか。

**プレゼン団体**：本業は、企業で技術者として働いており、子育て支援の学童は、社会活動として行っている。

### <プレゼンテーション3>

**プロジェクト名**：地域版フューチャーセンター&心地よく暮らし、はたらく  
Loco-working 拠点「文京版<sup>ココチ</sup>cococi」立ち上げプロジェクト(cococi000)

**団体**：株式会社<sup>ポラリス</sup>Polaris

### <質疑>

**各務本部長**：フューチャーセンターの運営などこれまでの経験の中から、効果測定をした事例を伺いたい。

**プレゼン団体**：感覚で捉えている部分はあるが、外からも見える形という意味では、これから専門家と共に一緒に測っていきたくと考えている。仕事ができる人が何人できたのか、これまで繋がらなかった人がどれくらい繋がれたのかなど、数字で分かる部分と定性的な部分の両方を測っていきたく。

**各務本部長**：これまで行政と関わりながら、仕事をしたことはあるか。

**プレゼン団体**：単発の講演などを受けたことはあるが、協働の経験はない。

**安藤本部長**：文京区では男女協働参画を推進しているが、cocociのプロジェクトは、女性限定のものなのか。

**プレゼン団体**：女性限定というものではなく、誰もが暮らしやすく心地よく働けるようにと考えている。私たちが当事者ということもあり、今は育児中の女性をメインにしているが、介護離職や働き盛り男性など誰もが仕事だけでなく地域でも働けるというマルチな働き方ができるモデルを広げていきたくと考えている。

**安藤本部長**：若年層のひきこもりの方や障害がある方など様々な人を含めた多様性を追求して欲しい。

**井上本部長**：理念やこれまでやってきたこと、これからやっていきたいこと、フューチャーセンターの重要性はよく分かったが、今回の支援は、研究助成ではなく、実行段階への支援になるので、支援プロジェクトに選考された場合、具体的に何から始めるのか教えてほしい。また、世田谷では何が起きていて、それが他地域や文京区にとってどのような意味があるのかを教えてほしい。

**プレゼン団体**：具体的に何から始めるかということだが、いきなり仕事をしてくださいといっても難しいので、まずは対話でそういった気運を高めていきたい。そして、次の第2クールでは、実際に企業や地域から新しい仕事を作っていきたい。新しい仕事を作れたという実感がエンパワーメントに繋がっていくので、ここを大事にしたい。

cocociは世田谷、フューチャーセッションは二子多摩川など、それぞれ別の場所で行っているため、首都圏全体で一つの事業モデルとなっている。文京区にはNPOや大学があり、また、今回行政と協働になるということで、文京区という地域で完結して事業を行うことができ、一つの地域でソーシャルインパクトを測っていくことができると考えている。

**井上本部員：**例えば二子多摩川でフューチャーセッションを行っていて、どんな人が集まって、どんなフューチャーセッションをして、どんなインパクトがあり、何が始まったのか。例えば、フューチャーセッションから生まれたものが、文京区の誰かと繋がったり、そこでの方法論をお互い学び合ってもっと大きなフューチャーセッションが互いに始まり東京というシステムが動き出す可能性があるなど。それぞれの地域で別箇に動くのではなく、繋がって何か生まれるというスキームが大切なのではないかなので、具体的に何が始まっていて、それが文京区とどう繋がっていくのかを教えてください。

**プレゼン団体：**二子多摩川と他の場所も含めてこれまで5回、テーマを少しずつ変え、フューチャーセッションを行っている。1回目のセッションでは、80人くらい来ていただき、セッションを行ったが、芽は出たがその後の進展はなかった。その後テーマを変えるごとに来る人が増えていき、前回の地域×企業というテーマでは、企業の人や行政の人、子育て中の人など様々な立場の人が集まり、それぞれが自分の中だけでは見つけることができなかつた答えを得て、帰っていく姿がみられた。そこで初めて色々な人が繋がってきているという実感を得ることができた。具体的なアクションは未知数であるが、確実に新しい繋がりが生まれ、そこから生まれているものの大きさというのは体感しているところである。ただ、体感を伝えるのが難しいということでハードルを抱えている。ソーシャルインパクトという点では、フューチャーセッション以外にも様々な事業を行っているので、それらのものを組み合わせて、全国に訴えかけていきたい。フューチャーセッションだけでインパクトを出そうとは考えていない。

**井上本部員：**ファシリテーションが出来る人が増えるというのも一つのアウトプットになってくるのか。

**プレゼン団体：**アウトプットの一つである。地域の視点を持ったファシリテーターを養成するロコファシリテーター養成講座という研修も始めたところである。

《終了審査》

＜プレゼンテーション4＞

**プロジェクト名：**ハッピーファミリープロジェクト

**団体：**子育てkitchen

＜質疑＞

**各務本部員：**今の事業モデルに対してこれはいける、という確信、自信を持ったのではないかな。今後の事業拡大に向けて、人材の育成など課題として認識していることを教えてください。

**プレゼン団体：**まず、自宅でやることに限界を感じ、9月から借りられる物件を探しているところである。事業拡大のため、回数を重ね、やりたいと思える人を集めていきたい。特に苦勞をした人の方が共感してもらえるので、そういった人たちと広げていきたい。

**各務本部員：**今日は何を作るなど、子育て kitchen の中で定番のものが決まっているのか。難易度別になっているなどマニュアル化したものがあるのか。

**プレゼン団体：**メニューはたくさんあるが、一番伝えたいのは、そのメニューをどこまで子どもにやらせられるのかということ。このメニューというのではなく、例えば玉ねぎを切る時は、子どもが切る前にお母さんが安定するように切ってから渡すなど、ポイントを載せている。

**各務本部員：**ひとそれぞれにカスタマイズできる、裁量に任せていい部分とそうではない最低限の共通事項が決まっていることが事業を拡大する上で大切と思うが、いかがか。

**プレゼン団体：**私は何気なくやっていることを仲間に書き留めてもらっている。後々それをまとめ、最終的には、子どもができるようするにはどうしたらよいかというポイントが分かるマニュアルにしていきたい。

**菊地本部員：**担い手としてこの支援を受けた感想を教えてください。

**プレゼン団体：**支援が始まる前は、自分の感情だけで動いていて、それを言葉にすることは、一緒に考えてもらったからこそ、できたことであった。その確信を持てるまで、自分の気持ちも揺らいでいたので、不安を払しょくできる確固たるものができたのが大きかった。正直、途中でめげそうになり、やめようと思ったこともあったが、続けたことで初めて分かることがたくさんあった。こういう機会があつてよかったと思っている。

**井上本部員：**すごく進化している。プログラムがどんどん形になっている。田中さん個人の経験、客観的な目線も入れたプログラムになっている。今後も試行錯誤をしながら強化していくと思うし、良いものであれば課金もできていくはずである。ここまでやってきた自分を褒めてあげて欲しいと思う。また、パパ kitchen の取組みもとてもよい。ヒットするのではないか。

**安藤本部員：**親離れ子離れ後に生まれたお母さん達の精神的な余裕や時間をどこに向けるのかというのが、このプロジェクトのもう一つの本質ではないか。ママ達を市民として考えた時、ママ達のキャリアを考えた時に子育て kitchen の中だけでは難しいと思う。前にプレゼンした échelle や Polaris がそういったことを目的とするプロジェクトなので、ここと連携することで、子育て kitchen がさらに成長していくのではないか。

#### 4 プロジェクトの選考について

選考委員の合議により、échelle 及び株式会社 Polaris の2団体を「継続力向上」の区分で支援することを決定した。また、子育て kitchen の終了についても承認した。

## 5 その他

**境野協働推進担当課長**：2014年度の重点テーマ、NPO活動PRフェア等について説明。

**八木区民部長**：審査結果は、明日までに各団体へ伝える。次回本部は11月25日（火）夜間に開催するので、予定をお願いしたい。

## 6 閉会

以上